



YMCA 阿南国際海洋センターと 大阪体育大学のキャンプ

福田 芳則

Fukuda Yoshinori

大阪体育大学名誉教授

日本レクリエーション協会理事

▼YMCA 阿南国際海洋センターと出逢うまで

中学・高校とひたすらバレーボールに打ち込んで体育系学部入学した私ですが、3年時に「野外運動学研究室」を選んだことが、大きな人生のかじ取りとなりました。キャンプ、縦走登山、雪中キャンプ、ヨット、サイクリングといった年5つの野外活動の企画・運営演習や、学外でのキャンプ指導等、様々な活動と人との出逢いを通して、多くの心揺れ動く体験を重ねました。

その一つは、看護学校教育キャンプのキャンプカウンセラー体験でした。3食自炊、テント泊、異学年との混成班、自分とほぼ同世代とのキャンプのとりまとめは、自己有能感を高めたり、自信を喪失したり、まさに天国と地獄とも思える体験の連続でした。それらの体験を通して「キャンプは人を育てる」ことを実感し、キャンプ、野外を生業としたいと強く思うようになりました。

もう一つは、ヨット実習。初めてのヨットでしたが、最終日のレースでは経験者もいる中2位となりました。「頭と身体を駆使するヨットは楽しい！素晴らしい！」この感覚が得られなければ、YMCA 阿南国際海洋センター（以下阿南海洋センター）と出逢うことはなかったと思います。

▼阿南海洋センターでの大阪体育大学のキャンプ（ステージ 1）

念願叶って昭和53年、大阪体育大学に奉職しました。大学キャンプ実習とスキー実習の企画・運営、野外教育のゼミ、野外活動部の顧問と、学生時代の夢であった野外を生業にできました。ゼミや野外活動部の活動に、縦走登山、雪中キャンプ、ヨット、子どもキャンプ指導など、自分が大学時代に経験し感動した活動を取り入れました。特にゼミでは競技活動に忙しい学生達に、ザックや雨具、登山靴などを揃えさせ、部活を休ませてゼミ実習に参加させるなど、新たな体験と価値観を植えつけたくて必死でした。



《阿南海洋センターでのゼミ実習（昭和58年）》

ゼミのヨット実習開始3年目に「先生、徳島県阿南市にYMCAの海洋センターがあります」とゼミ学生が偶然発見し、実習を行ったのが昭和58年のことです。大学の海洋スポーツキャンプ実習が始まるまでほぼ10年継続しました。ヨット、ウインドサーフィン、カヌー、カヤック、野々島トリップなど、学生はもちろん、私が一番活動を楽しんでいました。野外活動部でも、縦走登山と阿南海洋センターでの夏季合宿を隔年で行いました。

実習、合宿の実施に当たっての阿南海洋センターの姿勢はまさに「キャンパーズファースト」、利用者の立場にたったの活動支援は、関西の他の野外活動施設には類を見ませんでした。

大阪府キャンプ協会の野外活動施設選択要因に関する調査を担当し、いろいろな因子を抽出しました。「生活因子」は生活体験や自然体験がしっかりできるという要因、「利用条件因子」はスタッフが利用者の要望に応じてくれるという要因です。大阪府下の他のキャンプ場と比べて、阿南海洋センターはこの2つの因子が群を抜いて高い得点を示しました。「今良い風が吹き始めたからプログラムを延長しましょう」といった提案が満ち溢れ、毎回充実した実習が展開できました。そんな中、阿南海洋センターでの大学キャンプ実習の話が取りざたされ始めた頃、酒井哲雄先生と当時の三浦正所長、私の3人での「海洋活動をメインプログラムに大学がキャンプ実習をやるなら、センターを貸し切りにしますよ。」との会話が、阿南海洋センターでの実習実施を決定づけました。

▼阿南海洋センターでの大阪体育大学のキャンプ（ステージ 2）

大阪体育大学では昭和40年の開学時から、水泳、キャンプ、スキー3つの野外活動実習が必修科目でした。競技スポーツと学校体育が主流であった体育系大学のカリキュラムを、生涯スポーツの視点を導入して改革しようという機運が高まりました。従来の3食自炊、テント泊に象徴される生活重視型のキャンプ実習から、余暇スポーツを取り入れたプログラム重視型の実習へ移行することにしました。これまでの大阪YMCAと大阪体育大学の連携の実績もあり、余暇スポーツ＝海洋スポーツ＝阿南海洋センターとして、躊躇なく実習の大枠が決定されました。

平成3年に第1回大阪体育大学海洋スポーツキャンプ実習がスタートしました。海洋プログラム（セーリング種目、ローイング種目、野々島を中心としたアウトティング等）と、従来のグループワークを主体としたキャンププログラム（野外炊事、ウォークラリー、キャンプファイヤー等）で成り立つ構成は、30回目を迎えた今日まで変わっていません。



《セーリングトレーニング たった半日でこの成果》

『『セーフティーファースト』・『キャンパーズファースト』・『シーマンシップの育成』に基づく歴代の海洋センタースタッフから最大限の理解と支援』、「すべてのプログラム指導は大阪体育大学で行うこと」、「野外活動部の学生達を独自にトレーニングし、プログラム運営、指導補助スタッフとしたこと」など、いろいろな要因がうまく重なり機能し、成果を得た30年だと実感しています。鹿屋体育大学海洋センターの酒井哲雄初代所長のゼミ1期生6名のうち4名が、実習開始当初から今日まで指導スタッフに加わっているという「酒井マジック」も要因として忘れてはなりません。おかげさまで、令和2年2月2日、大阪体育大学と大阪YMCA共催で、「海洋スポーツキャンプの教育的価値を創造する」と題した大阪体育大学海洋スポーツキャンプ実習30周年記念シンポジウムを開催し、30年を振り返り未来を語ることができました。



《大阪体育大学海洋スポーツキャンプ実習30周年記念シンポジウム（令和2年）》

▼キャンプは人を育てる

日本で初めて海洋型キャンプ場として開設された阿南海洋センターと、日本で初めて海洋スポーツをプログラムに取り入れた大阪体育大学のキャンプ実習、ともに活動を通じて「人を育てる」という点で繋がり、融合されての30年でした。海の活動は、山の活動に比べ「死を間近に感じる場」であり、だからこそ参加者の本気や本音が現れます。そんな場を常に安全に提供する阿南海洋センターがあります。敢えてリスクに向き合いリアルな体験がもたらす教育効果は、海洋活動あるいは阿南海洋センターの大きな特徴だと思います。

キャンプには、自然とか豊かさや便利さとか、自分にはない他人の個性や素晴らしさに気づく機会、自分自身が挑戦・工夫する・耐える・乗り越える、達成・成功・挫折といった「心を揺り動かす本物の体験」が満ち満ちています。そのプロセスの中で、日常生活や学校では学べない自身・他者・社会、自然などへの気づきや学びがあって人としての成長があると思います。私は、ほぼ40年阿南海洋センターでキャンプ活動を行ってきました。ほとんどが大学生を育てるという立場でしたが、気づけば私が一番成長させてもらったように思います。「キャンプは人を育てる」という45年前の実感は今や信念となり、私の人生を豊かなものにしてくれました。

40年間私を成長させ続けてくれた阿南海洋センター、海の活動、愛情あふれるスタッフの皆さんに感謝したいと思います。

Profile



- 1954年 山口県下関市生まれ。
- 1978年 大阪体育大学に奉職、野外教育、レクリエーション教育に従事。学内外の野外活動実習やキャンプ指導などの活動すべてに学生をスタッフとして登用しその育成に努める。
- 2020年 大阪体育大学退職までに、体育学部長、副学長、日本野外教育学会理事、大阪府キャンプ協会理事、日本レクリエーション協会理事などを務めた。

【取材:大阪YMCA 菅田 斉】

YMCA阿南国際海洋センター | 大阪YMCA

感じ、考え、決断し、勇気をだして行動する！

YMCA阿南国際海洋センターは1968年日本で初めての海洋型キャンプ場として開設され、多くの青少年にマリンスポーツを通じて、海に親しむ海洋プログラムを展開しています。ヨット・カッター・カヌー・カヤック・ボードセーリングなどの操船をキャンパー自らの手で行う経験を通して、海の自然を感じ、考え工夫し、決断をし、勇気を出して行動することを学びシーマンシップの育成を目指しています。

